

✿ 発育調査の概要

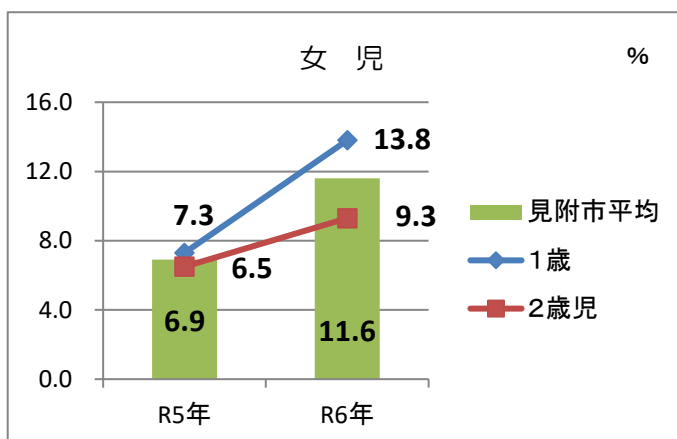
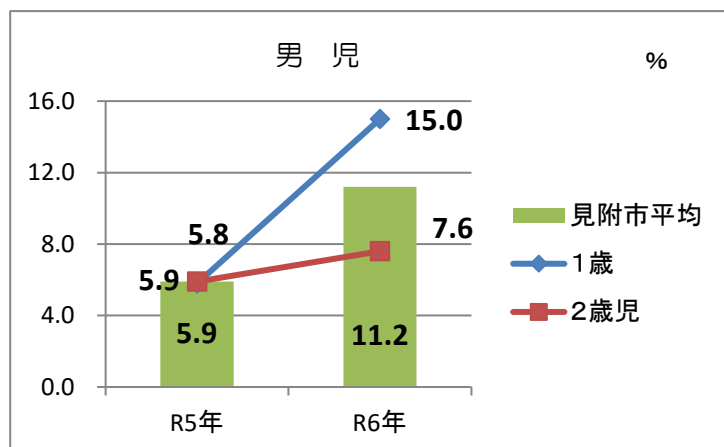
- ① 対象者 市内保育園・認定こども園 0歳～2歳児 376人
- ② 実施時期 令和6年6月 身体測定
- ③ 判定区分 肥満度（満1歳～2歳児）
 太りすぎ +30%以上
 やや太りすぎ +20%以上～+30%未満
 太り気味 +15%以上～+20%未満
 ふつう -15%超 ～+15%未満
 やせ -20%超 ～-15%以下
 やせすぎ -20%以下

※肥満・やせの判定基準は「日本人小児の体格の評価に関する基本的な考え方」に基づいています。

カウプ指数（1歳未満）
 肥満 20以上
 普通 14.5以上20未満

✿ 結果 1～2歳

【肥満度+15%（太り気味）以上の出現率】



【肥満度-15%（やせ）以下の出現率】

該当する園児はいませんでした

✿ 結果 0歳

カウプ指数14.5未満のやせ、20以上の肥満に該当する園児がいました。
 発達・発育はもちろん、離乳食の食べ具合、母乳やミルク量が日によって違ったり個人差があります。
 体重の増えやお子さんの様子に合わせて離乳食を進めていきましょう。



肥満は5歳頃に、やせは年齢が上がるにつれて増加する傾向があります。
 毎月、母子健康手帳の発育曲線および身長体重曲線に記録し、増加具合を確認しましょう。
 こどもの肥満は成人に移行する率が高く、年齢があがるほど解消しにくいと言われています。
 将来の健康のため、望ましい生活習慣・食習慣を家族でつくっていきましょう。